

[資 料]

広島県師範学校における「第21回己斐宮島間十哩競走」について

東川 安雄¹・金 炫勇²

The “21st Koi-Miyajima 10 Mile Race” in Hiroshima Normal School

Yasuo HIGASHIKAWA, Kim HYUNYONG

KeyWords

Hiroshima Normal School (広島県師範学校), 10 Mile Race (十哩競走)

はじめに

わが国の陸上競技の長距離競走の始まりは、1899（明治32）年、山口高校が行った十一マイル競走とされているが、広島県においても大正の初期から道路での長距離熱が高まった¹⁾。例えば、1931（大正2）年には広島逓友クラブが「宮島～己斐マラソン」、広島中学校が「己斐～廿日市校内マラソン」を行っている。さらには、1931（昭和6）年には、福山～広島間で「第1回中国駅伝」開催され、1938（昭和13）年には呉～広島間で「第1回軍都少年駅伝（現在の中国中学校駅伝）」が始まった。

このように長距離熱が高まる中、広島県師範学校（制度改革により名称が変更されていくが、本研究では広島県師範学校として統一して扱うこととする）は、1909（明治42）年、全校生徒を対象とした「安芸郡中野村往復15マイル競走」を実施した²⁾。この行事がその後どのように推移したかは不明である。その後1938（昭和13）年には、「己斐宮島間十哩マラソン」を実施しており³⁾、本研究で取り上げる行事が第21回であることを考えると、大正から昭和に改元した1926（昭和元）年に

第1回大会を実施している可能性がある。しかし、この点については推測の域を出ない。また、これまで当時の実施状況に関わる報告や研究は管見の限り見当たらず、行事が開催された事実の確認に終始している。

以上をふまえ、本研究は、1941（昭和16）年に行われた広島県師範学校の「己斐宮島間十哩競走」の実像を明らかにすることを目的とする。なお、本研究で資料として活用するのは「昭和十六年度

第二十一回己斐宮島間十哩競走書類」（以下、書類とする）である。

第二十一回己斐宮島間十哩競走について

1. 行事のねらい

広島県師範学校が行事を実施するにあたって、1941（昭和16）年11月17日に広島県廿日市警察署及び広島市西警察署に道路使用許可願を提出している。その書類に示されている目的は、「生徒ノ体位向上ノタメ」である。

2. 実施方法

書類にある「第貳拾壹回己斐宮島間十哩競走実

¹ 広島文化学園大学人間健康学部（Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University）

² 広島文化学園大学非常勤講師（A part-time instructor, Hiroshima Bunka Gakuen University）

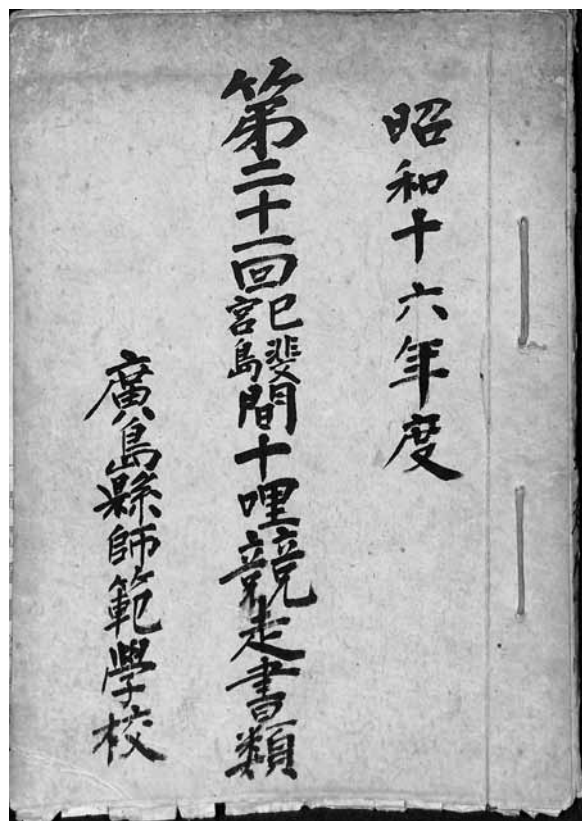


写真 書類表紙

施案」に示されている競走の実施方法は次の通りである。

- 一. 期日 昭和十六年十一月十一日（火）
- 二. 走路 己斐宮島間十哩
 1. 出発点：旭橋ノ北ノ観光道路入口ヨリ五米前方
 2. 決勝点：宮島驛前大野屋旅館ノ角ヨリ三七五米九二手前

書類に綴られている広島県廿日市警察署長及び広島市西警察署長宛に出された道路使用許可願によると、コースは「広島市己斐町ヨリ佐伯郡宮島驛前ニ至ル観光道路」を区域として、当初「旭橋ヨリ同河岸ヲ西走シテ－草津－五日市－廿日市－地御前－宮島」の道筋となっている。しかし、詳細に資料を点検すると「旭橋ヨリ同河岸」をカッコ書きとし、「西広島驛前」を挿入している。出発点を「旭橋ヨリ同河岸」から「西広島驛前」に変更したことが窺える。なお、この「西広島驛」

とは現在の「広電西広島駅」のことであり、現在のJR西広島駅は「己斐驛」という名称であった。決勝点近くの宮島驛前大野屋旅館は、現在の宮島街道宮島口交差点の角にある「旅館おおの屋」である。決勝点はそこから375mほど手前となり、現在の宮島ボート場付近であったと思われる。

具体的なコースについては、「途中監察割當表」から窺い知ることができる。途中監察とは、走者に自転車で随行しレース中の走者の違反や妨害等について監察する役割である。その割當表によると、監察する場所（区間）は表1のとおりである。なお、途中観察割當表の注記には、「一ヨリ九マデ順々に引継ヲナシ任務終了次第電車ニ余リ決勝点ニ急グ」と示されており、コース沿いの停留所から途中監察が移動できるようにコース設定されていたものと思われる。表1を具体的にみると、「出発ヨリ荒手踏切迄」の「荒手踏切」は、現在の広電宮島線草津南停留所近くの西国街道がJR山陽本線及び広電宮島線を横切る地点である。「西尻ケ踏切」は西国街道がJR山陽本線を横切るJR新井口手前の踏切である。

表1 途中監察割當表

	場 所
1	出発点ヨリ荒手踏切迄
2	荒手踏切ヨリ西原ケ尻踏切迄
3	西原ケ尻踏切ヨリ井ノ口踏切迄
4	井ノ口踏切ヨリ五日市海水浴場入り口迄
5	五日市海水浴場入り口ヨリ楽々園マデ
6	楽々園ヨリ廿日市警察署迄
7	廿日市警察署ヨリ地御前停留所迄
8	地御前停留所ヨリ阿品停留所迄
9	阿品停留所ヨリ決勝点迄

コースとして使用された「観光道路」（現在の宮島街道）であるが、1931（昭和6）年度には宮島－五日市間、1932（昭和7）年度には五日市－井口間が整備開通したが、その後水産団体などの反対のために井口－草津間の整備計画は中断した。1937（昭和12）年には現在の広電西広島駅の近くに「観光橋」が架けられるなど、広電西広島駅前から現在の西広島バイパス入口交差点の手前あたりまでは観光道路の一部が整備されたが、井

ロー己斐が開通したのは1942（昭和17）年である⁴⁾。したがって、第21回大会が開催された1941（昭和16）には観光道路全線を使用したコース設定はできなかったと思われる。

以上の状況をふまえると、第21回大会は、「西広島驛前」を出発し、コースを西国街道として西進し、「井ノ口驛踏切」より観光道路に入り、決勝点の「宮島驛前」に進んだものと推測できる。そのコースを1939（昭和14）年当時の地図⁵⁾にトレースしたものが図1である。

- 三. 時刻 午前八時 西広島驛前ノ観光道路ニ集合
午前八時半競走開始
但シ歩者ハ午前六時五十分集合
同七時出發
- 四. 参加者 全生徒（長講生ハ徒歩ヲ本体トス但シ健康診断ノ結果競走シ能ハザル者ハ其ノ身体状況ニヨリ歩者或ハ役員ニ決定ス

このように、健康診断の結果をもって生徒を走者だけでなく、歩者としての参加を義務づけている。あるいは役員とする判断をしている。健康診断は全員に義務付けられたものではなく、「健康診断ハ自ラ身体ニ異状アリト自覺スルモノ及教師

ニ於テ診断ノ必要アリト認ムル者ニ就テ行フモノ」であった。健康診断は、11月8日（土）午後3時より実施された。その結果、57名が受診し、27名が参加停止となった。

また、1941（昭和16）年4月、文部省の指示にもとづき、広島師範学校校友会は赤心報国団と改称された。このことをふまえ、実施案では「赤心報国団鍛錬部及び其ノ他公務ノ為メ不参加ヲ許サレタルモノハ後日適當ナル日ニ於テ施行ス」と対応することとした。

- 五. 方法 先各人ノ着順ト所要時間ヲ明カニス
1. 審判法 所要時間ハ第十位マデ秒時ヲ計測シソレ以下ハ分単位トシ計測ス
 2. 晝食 瓣當ハ各自ニ持参セシム
 3. 被服其ノ他携帯品ノ輸送
 4. 當日ノ本部 宮島驛前大野屋旅館
 5. 生徒服装
(イ) 競走以外ノ服装 正帽, 正上衣, 運動用白パンツ, 正下衣, 運動靴若クハ足袋



図1 推測されるコース（己斐～草津）

(ロ) 競走服装 白鉢巻, 半袖
シャツ, 白半ズボン, 運動
靴若クハ足袋

競走の審判については, 所要時間を計測して順位を決めているが, 審判の正確を期するため, 生徒の背部に「姓名票」を付けさせ, これをもぎ取って順位表に記録する工夫をしていた。また, 従来は20位までの者に「二十傑賞『メダル』」を授与していたが, 今回は削除された。その背景は不明である。参加した生徒の被服については, 競走開始前に取りまとめ, 貸切電車で輸送した。さらに, 予算の中に「救護用自動車(必要に応じて臨時使用)」に係る費用が計上されており, 非常時の救急体制が計画されていたと思われるが, その詳細は不明である。なお, 競技に関する役員とその人数は次のとおりであった。

十哩競走役員(教職員)
総務 3名
出発係 7名
決勝係 13名, 生徒36名
自転車途中監察員 5名
救護係 2名(校医)
被服輸送係 生徒3名
救護係 生徒2名

六. 競走当日迄ノ準備事項

大会当日までの準備については, 以下の11項目に渡って対応している。

1. 教生及関係附小へノ通知ノ件
2. 当日同走路ニ於イテ同様ノ競走ノ有無ヲ各中等学校ニツキ調査シ 若シアラバ 時間ノ打合ヲナス
3. 走路視察及大野屋旅館(当日ノ本部) 打合ハセノ件 湯茶其ノ他準備依頼
4. 電車乗車ニ関スル件 廣電鉄運輸課ニ交渉
5. 順位票並ニ證書ノ準備
6. 記念撮影ノ件

7. 健康診断及競走當日医師出張ニ関シテ医師トノ打合及公文書発送ニ関スル件
8. 職員及生徒役員決定ノ件
9. 廿日市警察署ニ道路使用許可願提出
10. 競走ニ関スル諸注意並ニ説明
11. 健康診断

七. 費用 計 三八. 八〇円

この行事の予算は, 総額38円80銭であった。また別途, 電車借輦代として17円4銭が計上されていた。

八. 生徒へノ注意事項

生徒への注意事項については, 11月10日午後に師範学校内不動心碑前で行われた。具体的な内容は, 服装や当日の集合時刻・場所, 走路, 役員割当, 弁当, 帰途の電車賃などであった。その中に, 「競走中ノ心得」が示されている。その内容は次の通りである。

- イ. 走法ニ就イテ(呼吸速度ノ加減等)
- ロ. 左側通行ヲ厳守スルコト(特に曲路ノ注意)
- ハ. 踏切係員ノ命令ニ絶対服従スルコト
- ニ. 競走後の衛生ニツイテ(新シイ下着ヲ持参スルコト)

九. 成績

書類にある「昭和十六年十一月十一 己斐宮島間十哩成績表」によると, 366名が完走している。トップは58分43秒, 最終走者は89分50秒であった。なお, 歩者の結果については不明である。

おわりに

本研究は, 1941(昭和16)年に行われた広島県師範学校「己斐宮島間十哩競走」の実像を明らか

にすることを目的とするものであった。これまでこのような行事の実像は明らかにされておらず、限られた情報であるが、実像の一部を明らかにすることができた。なお、師範学校では、終戦後の1947（昭和22）年に第1回本校宮島間クラス対抗駅伝競走」を実施している。今後は、この行事の実像を明らかにしていきたい。

（注）

本研究で取り上げた「昭和十六年度 第二十一回己斐宮島間十哩競走書類」は、元広島大学教育学部東雲分校教授であった富田功氏が所有していたもので、同分校保健体育研究室関係者が引き継ぎ、2018年3月に広島大学文書館に寄贈したもの

である。

引用・参考文献

- 1) 広島陸上競技協会（2003）（財）広島陸協七十年の歩み. 3.
- 2) 金枅晴海（1979）広島スポーツ100年. 中国新聞社：47.
- 3) 広島大学二十五年史編集委員会（1977）広島大学25年史 包括校史. 広島大学：564.
- 4) 広島市（1992）井口村史：276.
- 5) 西村善汎（2011）戦時下の広島復刻－昭和十四年当時の地図と職業別明細図広島市（番地入）. あき書房.